

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人
兵庫県知的障害者施設協会
〒651-0062
神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1
兵庫県福祉センター5階 502 号室
TEL (078) 862-6026
FAX (078) 862-6082
E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp
発行責任者 蓬 菜 和 裕
印刷所 交友印刷株式会社

活動報告

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 会長 蓬菜 和裕



実りの秋を迎えると、希望の郷「農耕班」は、地元の農家や営農組合が刈り取った稲の乾燥と脱穀を請け負っているのです、大変忙しくなります。今年は、9月の日照時間が異常に少なく、農家は収穫量を心配されています。異常気候が続いています。今年の台風が観測史上初めて東北地方に上陸しました。大雨や台風による被害はなかったでしょうか。もし被害が出た場合はお知らせください。

主な活動について報告いたします。5月の『ゆうあいスポーツ大会（のじごくスポーツ大会）』は、スポーツ委員長をはじめ、会員事業所から派遣していただいた、競技役員の方々の活躍により、無事終了することができました。ありがとうございました。今年10月22日（土）から3日間行われる、全国障害者スポーツ大会（岩手県）の選手選考も終わり、大会当日を待つばかりです。

各部会活動も計画通り行われ、関係部会の研修に参加された事業所もあると思います。県社協の政策委員会には、協会として①高齢者の介護保険利用について、②相談支援事業所の安定的運営と相談員の待遇について、③人材確保、④介護者なしのJR運賃割引について、⑤施設整備補助の見直し、⑥市町における災害訓練への福祉施設の参加、⑦短期入所支援の充実、の7項目を提案し知事に提出しています。また、昨年度実施できなかった、県障害福祉局との意見交換は、本年度9月20日（火）に実施いたしました。協会からは正副会長、県からは関障害福祉局長、羽原障害者支援課長、斉藤障害者支援副課長、上月障害政策班長、藤本施設整備担当が参加され、上記7項目の政策提言をはじめ、グループホームの防火設備について、やまゆり園の事件について、入所施設等における知的障害者の暮らしの場の問題等について積極的に意見交換を行いました。外部からの侵入者の問題につきましても、入所施設（児童入所を含む）に対して行いました調査結果に基づき、マニュアルの問題、設備の問題等について意見交換を行いました。特に、調査項目にありました「警察へのホットラインの設置」については、今後、県警と調整を図り設置する方向で検討したいという意見が出されました。

福祉の集いは、9月29日（木）「親なきあとを考える」をテーマに、神戸メリケンパークホテルにて360人の参加のもと実施することができました。午前の児玉真美さんの「重い障害のある人のいのち」～いま世

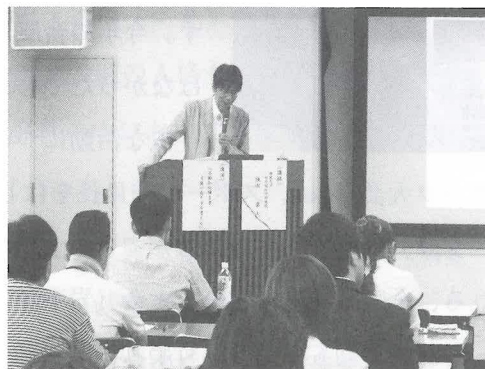
界で起こっていること～、の講演は、やまゆり園で無残にも19名の命が奪われた後だけに、家族や障害者の支援を行う者は、切実な問題として受け取っていただけたと思います。私は、行政の方々にも是非講演を聴いていただきたいと思っていたのですが、関局長、津曲課長、江本理事長等、熱心に聴いていただき「いい話だった」、「考えさせられた」との感想をいただきました。テーマである「親なきあとの問題」は、単に制度の充実を図るのではなく、みんなが安心して暮らせる社会をつくることが重要なのです。親なきあとは制度や人に託すのではなく、それらを包含する社会に託すことであり、託す社会が今、不安な状況にあることが問題なのだと言うことを再確認できた研修だったと思います。

今後も様々な問題に対し皆様方と一緒に取り組んで行きたいと思っています。

平成28年度 日中活動支援部会施設長及び職員研修会

1. 実施期日 平成28年8月30日(火) 13:15～16:30
2. 開催場所 あすてっぶ神戸 セミナー室1

高齢知的障害者の方への支援は、心身機能の低下、医療的ケアの増加、65歳問題に代表される今後の制度改革に伴う介護保険制度との調整など、現場では大きな課題となっています。そのような共通認識のもと、今回の日中活動支援部会施設長及び職員研修会は、テーマを「高齢知的障害者支援の在り方を考える」として佛教大学社会福祉学部教授植田 章様を講師にお迎えし開催いたしました。当日は、県下会員事業所並びに任意の参加も含め69名のご参加をいただき、現場での関心の強さを実感いたしました。



講演に先立ち、兵庫県障害福祉部障害福祉局障害者支援課施設整備・就労対策班主幹 藤本俊典様により「行政報告」が行われました。先般、相模原市にて発生した痛ましい事件を受け利用者の尊い生命を預かる事業所の対応や福祉事業所における事業継続計画(BCP)について説明を受けました。地域に開かれた事業所と不審侵入者に対する対応とのギャップ、災害時対応など頭を悩ませる課題は多いのですが、行政並びに関係者との連携のもと利用者の皆様にとって安全で安心できる居場所づくりを目指していきたいと考えます。

引き続き、植田 章様より「高齢知的障害者支援の在り方を考える」と題して実践研究にもとづいたご講演をいただきました。実践面と制度面の両面からアプローチ、医学的知識の必要性、個の尊厳、その人らしさ、生活の主体者であることの保障、DSQIIDスケールの活用など日頃の実践を振り返りながら理解を深めることができました。また、講演終了後、看取り、ダウン症に関する事例、実際の現場での活用について質疑が行われました。

ご本人の人生の物語に寄り添い、利用者ご本人が、老いとう向き合っていくのかを支えていく私達の役割の重要性を再認識し、明日からの実践に生かしていきたいと思っています。

(文責) 塩尻 点

神戸地区の報告



神戸市知的障害者施設連盟
事務局長 正 心 徹

今年度の神戸市知的障害者施設連盟の動きは、昨年度改選の新役員体制も軌道に乗り、制度の変化にも柔軟に対応できる組織作りを目指しています。具体的には、事業の実効性を高めるため、役員会の開催頻度を増やすと共に、部会及び委員会の整備に重点を置いています。さらに、社会福祉法人の今後について、より一層の連携を深めたく、昨年度に引き続き、現在連盟を構成する、47 会員事業所の所属法人の代表者に集まっていただき、勉強会を含めた連絡会を開催すべく企画中です。

今年度の事業は、制度学習や事業所見学等の研修事業、障害者スポーツへの協力事業、制度政策への要望活動等、順調に進んでいます。また、調査研究部会を中心として、養護学校・特別支援学校の進路指導担当教員との連絡会を開催し、進路調整を担って 12 年目となります。得られた情報は連盟で共有し、より良い福祉サービスに繋げて参ります。関連情報は、ホームページに順次掲載の予定です。

神戸地区職員部会の動きについては、以下の一覧をご参照ください。

1. 全体

- (1) 神戸市知的障害者施設連盟役員会、及び施設長会への出席
- (2) 「共に歩む会」引率チームのサッカー大会、ソフトボール大会への送迎広報
- (3) 5 月 16 日 神戸市退職共済・福利厚生事業運営委員会出席
- (4) 5 月 20 日 職員部会担当者会議（総会）及び研修会

研修会内容：社会福祉法人神戸あゆみの会 あゆみの里・なごみの里

総合施設長 今岡幸子氏の講演

テーマ「支援者と障害者虐待防止法のかかわりについて」

～職員に対して伝えたいこと、望むこと～

2. 研修委員会

- (1) 8 月 18 日 看護師、栄養士、支援員研修会
社会福祉法人旭川荘障害者支援施設 愛育寮 見学及び情報交換会（24 名参加）
- (2) いたやど地域生活支援センターとの連携による研修会の打ち合わせ
11 月 22 日開催予定 テーマ「親亡き後を見据えたチーム支援」
- (3) 10 月 19 日 栄養士研修会開催予定（味の素グループ栄養士セミナー）
高齢者対応、肥満者対応レシピについて
- (4) 12 月 9 日 看護師研修会（2 回目）開催予定
- (5) 2 月に栄養士研修会（2 回目）開催予定

3. スポーツ委員会

- (1) 4 月 10 日 ボウリング選手選考記録会
第 16 回全国障害者スポーツ大会岩手大会の神戸地区選手選考記録会
- (2) 6 月 13 日 第 16 回全国障害者スポーツ大会出場選手選考会出席
代表 2 名が決定
- (3) 8 月～10 月 神戸地区ボウリング代表選手強化練習（8 回程度実施）

阪丹但地区の報告

会長 森 康 祐
(塚口福成園)

神奈川県相模原市の障害者支援施設で、多くの利用者が命を奪われ、負傷する痛ましい事件が起きました。被害に遭われ亡くなられた方々にご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にはお悔み申し上げます。阪丹但地区といたしましても、兵庫県知的障害者施設協会と連携を図り、協力しながら二度と同じようなことが繰り返されないよう努めさせていただきます。

さて、今年度の阪丹但地区の動きは、2年の役員任期が終了して役員改選から始まっております。長年、副会長を務めていただいた佐伯副会長（三田谷治療教育院）と職員代表の石塚支援員（たんば園）のお二人が退任されています。新たに新役員といたしまして、副会長に丸山和幸施設長（芦屋翠ホーム）、職員代表に本庄良彦支援係長（ポプラの家）をお迎えしております。

平成 28 年度事業の進捗状況は、「福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業補助金」の申請ができましたので、例年通りに職員の資質向上や交流・情報交換を目的とした様々な研修会（5 回）を進めております。1 回目の研修は、8 月 18 日に又村あおい氏による「障害者差別解消法について」を実施しております。4 月よりスタートしている障害者差別解消法には興味を持たれた受講者が多数参加されており、障害者差別解消法が制定された背景から概要、福祉分野に関わる私たちがすべきことを分かり易く学ばせていただきました。「困っているということを書いていい環境」当たり前のことですが、まだ当たり前でない社会、私たちが理解不足の解消に繋げていく役割も大切ということでした。

9 月 7 日には支援員向け研修として、株式会社おめめどう代表の奥平綾子氏をお迎えして「見える形のコミュニケーション」の研修会を実施しております。カレンダーやスケジュール、筆談コミュニケーション法などの見える支援の部分だけではなく根拠も含めたとても説得力のある内容でした。視覚支援を行う施設や事業所は増えつつありますが、支援のベースとなる部分の強化も今後は求められてくると感じました。

これから 11 月 15 日に管理職研修として「苦情解決」、1 月は事務員研修、2 月には実践発表会とまだまだ研修会を予定しておりますので、少しでも多くの方にご参加いただければ幸いです。引き続き、皆様に合った課題や関心のある研修会を企画、私たちと一緒に知識と意欲向上に活用していただけるように努めていきます。



 播淡地区の報告会長 宮崎 泰生
(播但地区職員代表者会)

播淡地区は今年度より役員の交代があり、施設長会は福田前会長の後任として、ワークホーム高砂の齊藤が会長に、池副会長の後任に五色精光園の深谷が就任しました。職員代表者会も細木前会長の後任として大地の家の宮崎が就任させて頂きました。今年度もスポーツ・研修・研究・文化の4委員会で4つの事業を運営しております。平成28年度の各委員会の事業の進行状況を報告させて頂きます。

①スポーツ委員会

平成28年5月27日(金)加古川運動公園陸上競技場にて、参加者1,043名と多数の参加を頂くなか第28回ばんたん親善運動会を開催致しました。昨年まで2年連続で雨天のため中止となってしまう、今年こそはと開催日の見直しなど検討を重ねてきました。当日は天候にも恵まれ、参加された利用者の皆様も久々の競技を楽しまれていました。

②研修委員会

第1回目は平成28年7月7日(木)に小野市うるおい交流館にて研修会を開催致しました。参加者は98名と播淡地区外からも多数ご参加頂きありがとうございました。

「知的障害を伴う自閉症児・者における問題解決に向けた行動支援」という内容で、自閉症児・者の行動特性の基本的な理解から、実際の問題解決の支援場面の映像を通して、問題行動解決のための支援の全体像を学ぶとても良い機会となりました。

第2回目は平成28年10月28日(金)同じく小野市うるおい交流館で市立加西病院精神科部長 久保田康愛氏をお招きし、「知的障害を持つ人たちの心の育ちについて～保護者も含めた支援のあり方」という内容で実施予定ですので、是非参加して頂ければと思います。

③研究委員会

平成28年8月24日(水)～25日(木)ニューサンピア姫路ゆめさきにて第30回播淡地区施設長・職員一泊研修会を開催致しました。今回は平成28年4月に障害者差別解消法が施行されたことを受け「本人主体の権利擁護を考える～本人の願いを尊重する支援とは～」を研修会のテーマとして、学識者・当事者・施設管理者と幅広い視点からテーマに沿ったご講演をいただきました。また、パネルディスカッションでは活発な意見交換がなされ、事業所が求められる合理的配慮の視点等、参加者にとっても有意義な情報共有・交流の場になったのではないかと考えております。

④文化委員会

平成28年11月22日(火)姫路文化センターにて第25回ばんたん・ゆうあい文化祭を開催予定です。参加者は1,200名もの大人数になる予定ですが、昨年度の反省、また今までの実績を踏まえ、利用者の皆様に安心、安全に楽しんで頂けるよう、企画・準備を進めております。

以上、播淡地区職員代表者会4委員会の事業の進行状況として報告させていただきます。

福祉の集いを終えて

事務局 吉山 幸男

さる 9 月 29 日、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて恒例の福祉の集いが行われました。この日は約 360 名という大勢の方々にお集まりいただき、盛大に開催することができました。これも関係者の皆様方のお蔭であり、心から感謝申し上げます。

さて、このときの講演会は「重い障害のある人のいのち～いま世界で起こっていること」というテーマで、フリーライターの児玉真美氏にお話をさせていただきました。



講師：児玉 真美氏

2006 年にニューヨークやパキスタン、インドなど世界の国々で起こった臓器売買の事件。2004 年にシアトルこども病院で起こったアシュリー事件など。人の尊厳とは何か。人が生きる目的とは何か。人が死ぬ権利とは・・・どれも生命倫理や医療倫理に関わる非常に重要な話ばかりでした。

とりわけ、講演の中でカナダ医師会の雑誌の論説を紹介しつつ、児玉氏は「ケアする者である我々が認知症の人をノンパーソンとして扱うなら、それだけ治療的な関係もケアする側の人格も同様に損なわれる」と話され、「人の尊厳とは個々の中にあるのではなく、人と人との関係性の中において見出し得るもの」という言葉が印象的でした。

一方、日本でも先日、相模原市の障害者施設で多くの利用者が一瞬にして命を奪われるという大変痛ましい事件があり、他の国で起こっていることは決して他人ごとではないと思い知らされました。

午後からは、重症心身障害児（者）を守る会、手をつなぐ育成会、知的障害者施設家族会連合会の代表者 3 名の方から、「親なきあとも安心して託せる社会」を築くために私たちは何をなすべきなのかについてお話をいただきました。参加者の皆さんはとても熱心で、3 名の方のお話が終わったあとも議論が続きました。

このたびは関係者の皆様。本当にご苦勞様でした。そして皆さんと一緒に「親なきあとも安心して託せる社会」を築くために努力を続けたいものです。

編集 後記

今年度から新たに人材確保委員会・広報委員会を立ち上げました。

人材確保委員の活動内容や動きなどは次のニュースでお知らせさせていただきます。

広報委員会では、待望の当協会のホームページを立ち上げ、研修の情報や各部会・委員会の活動内容など提供できればと思います。

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 HP アドレス

<http://www.hyogo-kenchikyo.or.jp/>

今後とも、ご支援宜しくお願い致します。

(T.S)